マスク着用が顔の印象に与える影響
―小学生と大学生の比較―

安藤ゼミ　岡村美奈

目次

第1章　序論

第1節　問題意識
第2節　本研究の目的

第2章　予備調査

第1節　目的
第2節　方法
第3節　結果
第4節　考察
第5節　本調査に向けて

第3章　本調査

第1節　目的
第2節　方法
第3節　結果
第4節　考察
第5節　総括

引用文献
参考文献
付録1　予備調査アンケート
付録2　本調査アンケート
付録3　本調査質問紙

問題・関心

マスク着用における表情認知や表情の印象評価に影響があるのではないか？

・基本6感情について（伊藤・吉川,2011）

⇒怒り・悲しみ・驚きの表情では顔の上部の影響が強く、恐怖・幸福の表情では下部の影響が強いことが認められた。

・大人と子どもの表情認知に関する調査（宮崎,2022）

⇒大人では、幸福、無表情、悲しみのみで、マスク着用によるパフォーマンス低下が認められたのに対し、子どもでは、多くの表情でパフォーマンス低下が認められた。

目的

・マスク着用の有無によって、表情の正答率や、表情の印象形成にどのような影響を及ぼすのかを明らかにする

・大学生と小学生の比較を行うことにより、マスクを着用するという行為がどのくらい表情認知に影響を与えるのかを検討する

仮説①「マスク有り」よりも「マスク無し」の方が正答率は高くなる。

仮説② 小学生よりも大学生の方が、正答率は高くなる。

調査概要

【調査期間】

①2023 年8 月13 日～9 月13 日

②2023 年10 日10日～10 月13 日

【調査対象】

①大学生・大学院生(69名そのうち女性55名、男性14名)

②奈良女子大学附属　小学3年生(62名、そのうち有効回答数:52名)

【調査方法】

①Googleフォームでのアンケートによる実験

②質問紙による実験

【質問紙構成】

回答者の属性

どのような表情であるか

どのような人物であるか(印象評価)

実験で用いた画像

驚き

悲しみ

幸福

実験で用いた画像

恐れ

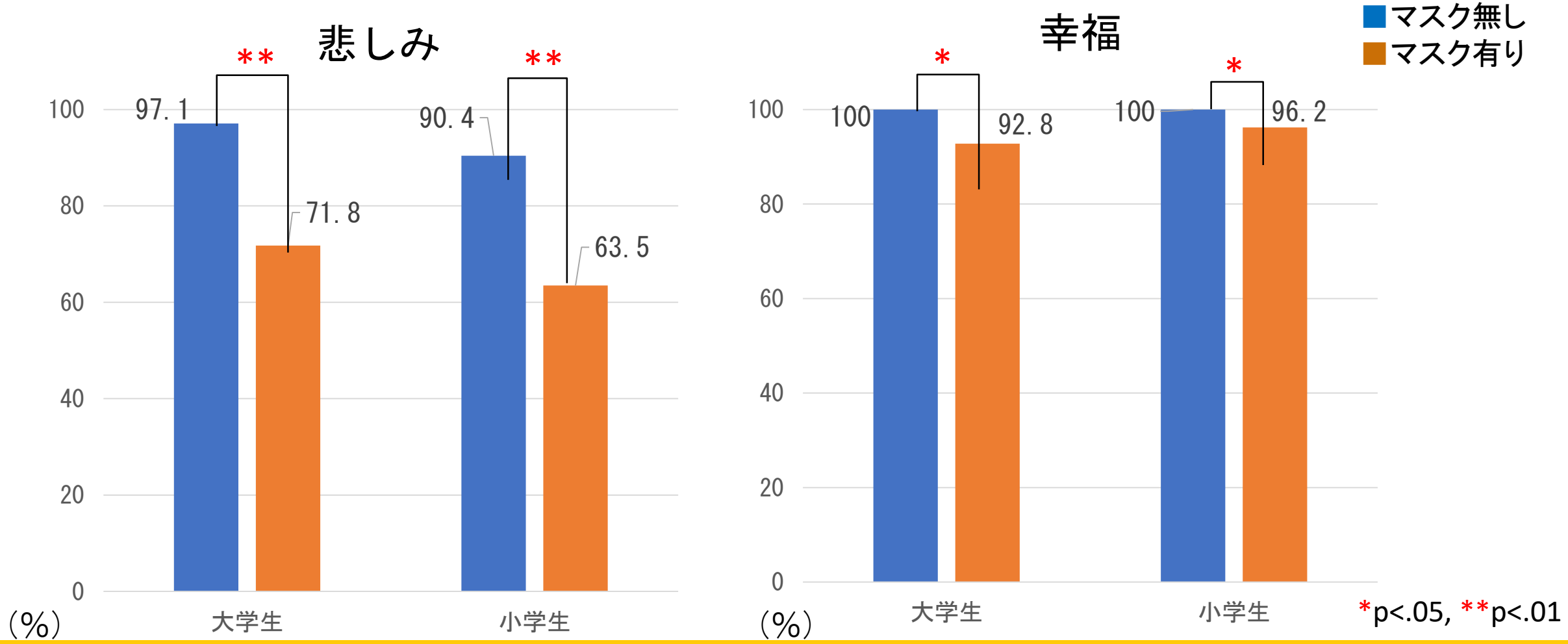
嫌悪

怒り

結果①

仮説①「マスク有り」よりも「マスク無し」の方が正答率は高くなる。

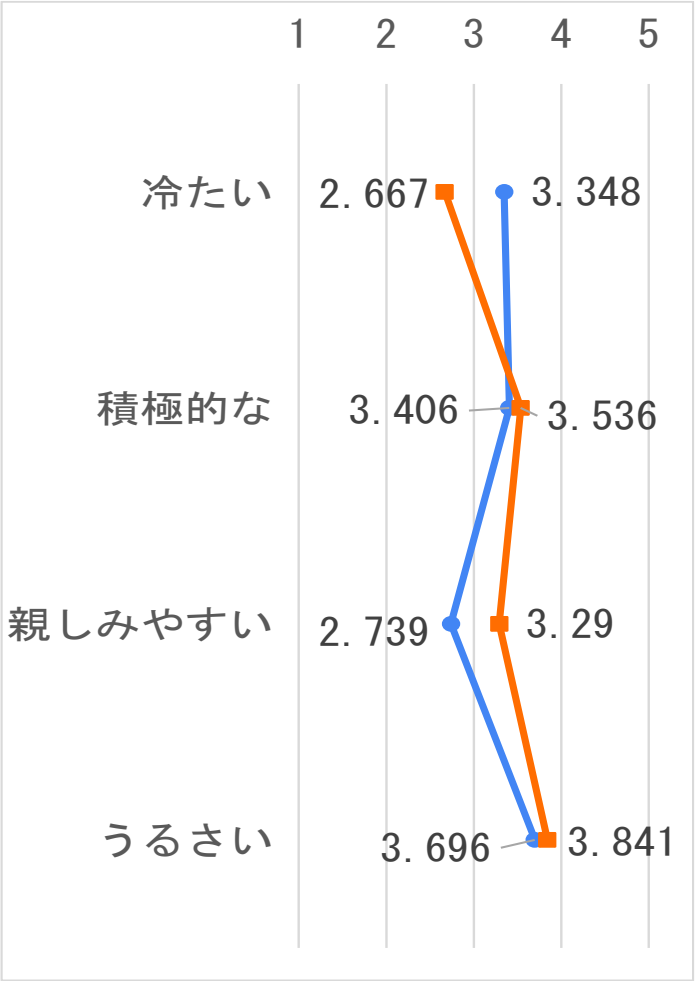
⇒仮説②小学生よりも大学生の方が、正答率は高くなる。に関しても、同様の結果となった。



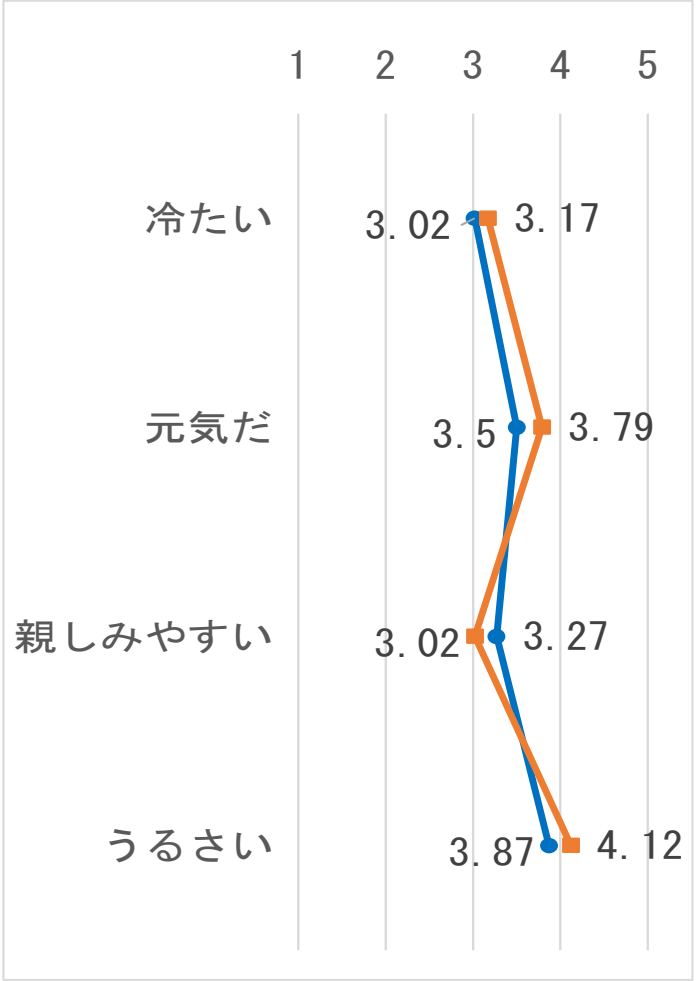
結果②―１　悲しみの印象評価の平均値

●マスク無し
■マスク有り

大学生



小学生

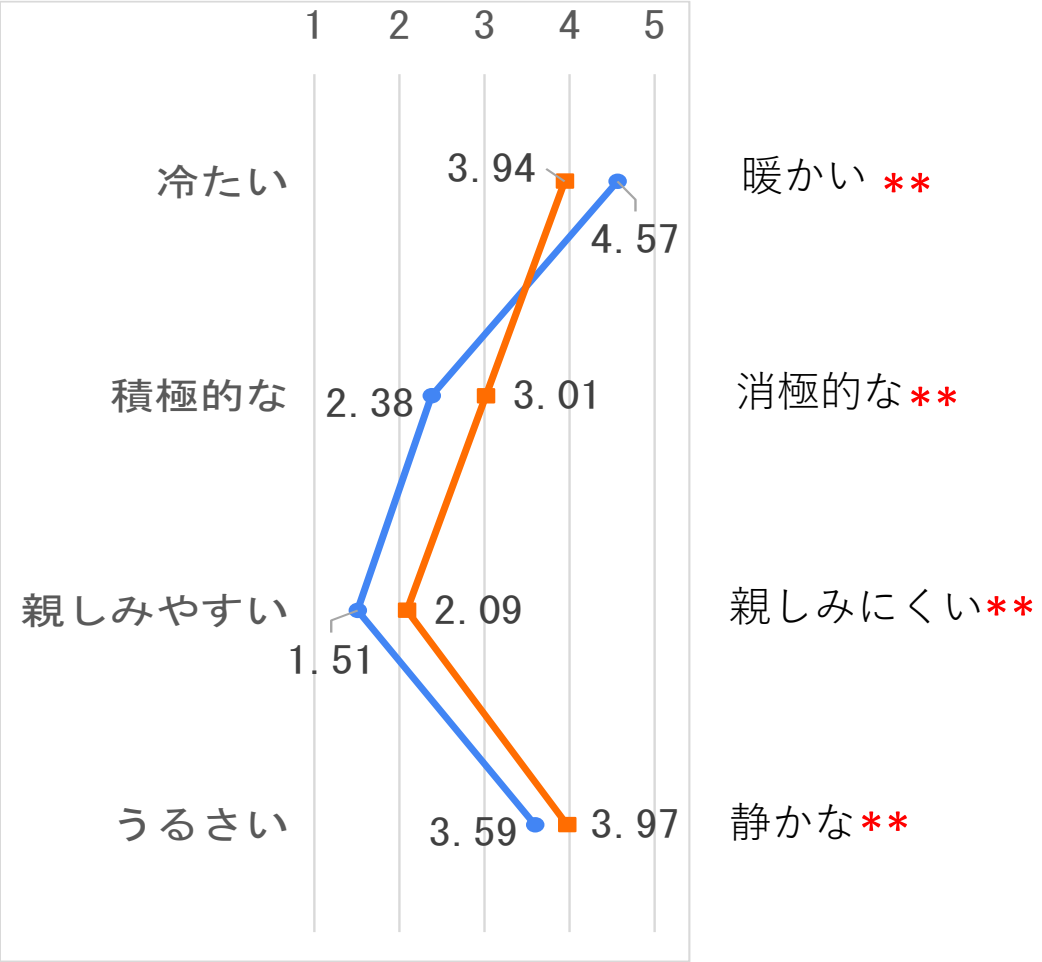


*p<.05, **p<.01

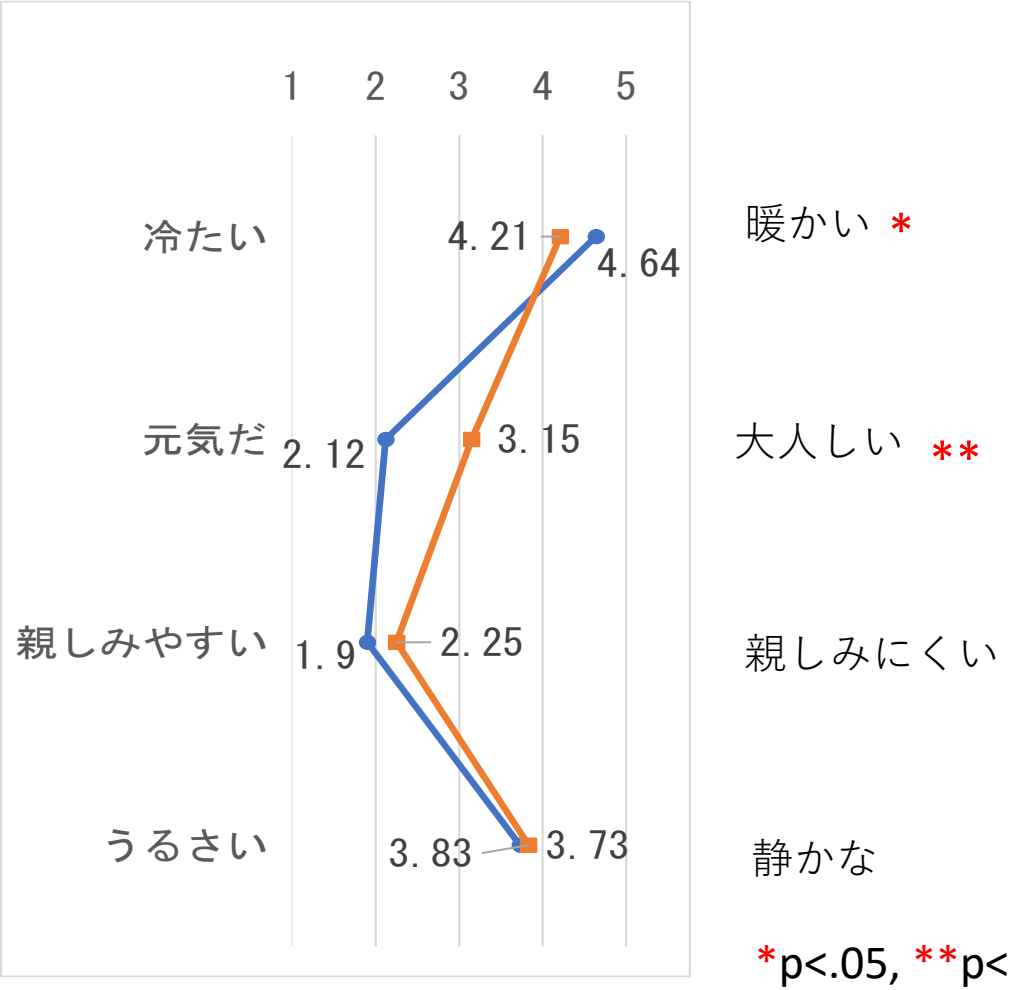
結果②－２　幸福の印象評価の平均値

●マスク無し
■マスク有り

大学生



小学生



*p<.05, **p<.01

考察①

<u>仮説①「マスク有り」よりも「マスク無し」の方が正答率は高くなる</u>

<u>仮説②小学生よりも大学生の方が正答率は高くなる</u>

χ2検定を行ったところ、

⇒「マスク有り」よりも「マスク無し」の方が有意に正答率が高かったのは「幸福」と「悲しみ」の表情のみ

⇒大学生よりも小学生の方が、正答率が高くなったのは「悲しみ」のみ

●自分が辛い、不安などの経験をして「悲しみ」の表情をすることはあるかもしれない⇒人生経験の中で、子どもにとってあまり「悲しみ」の表情を目にする機会がなく、悲しみの表情を認識しづらいのではないか。

考察②

印象項目において、大学生はすべての表情でマスク着用の有無によって有意な差が見られたのに対し、小学生は、「幸福」「恐れ」に関して、マスク着用の有無によって有意な差が見られた。

●大学生はマスクをしない生活が日常的であった

⇒コロナ禍でマスク着用によるインパクトが大きく、印象評価の差が出た項目が多いのではないか。

●大学生の方が差がある項目が多い

⇒小学生にとってはマスクが普通になっているため、マスク有り無しの印象の差が少ないのではないか。

ご清聴ありがとうございました。